

平成31年度科研費獲得推進支援プロジェクト研究 (リフレクションへの志向性の形成を促すカリキュラムについての研究)

最終更新日：令和2年7月27日
【プロジェクト代表者】
教職実践ユニット
教授
若木 常佳

キーワード 教師教育 リフレクション カリキュラム

プロジェクトの内容 (目的・方法・結果と意義)

1 研究の目的

本研究の目的は、学部・教職大学院で継続的に行う〈リフレクションへの志向性の形成を促すカリキュラム〉を開発することである。

2 研究の方法

本研究は、共同研究(研究メンバーは、「プロジェクト構成員」参照)である。カリキュラム構築には、A) リフレクションの重要性を認識している教師養成機関の教師教育者との協力・B) 実習先の確保と連携が不可欠である。これらのうち本研究ではA) を取り上げる。

具体的には、次の3点について行う。

- ・現段階でのリフレクションについての日本と世界の教員養成における指導状況の整理
- ・実践内容の検討と学部と教職大学院におけるリフレクションの指導内容の精査と系統性の検討
- ・学部と教職大学院のリフレクション指導を連携する上での今後に向けての課題整理

3 結果と意義

(1)学会発表(日本教師教育学会第29回大会(岡山大学)で「リフレクションへの志向性の育成について-学部と教職大学院の取り組みの実際-」2020年9月21日)

自己探究の構えが形成されるには、リフレクションの志向性の育成を目指した学部・教職大学院の教師養成機関での系統的・継続的な学習が必須である。そこで、自己探究につながるリフレクションの志向性育成の手がかりを得ることを目的として、リフレクション指導の国内外の現状をレビューしつつ、学部段階と教職大学院段階の実践事例を検討した。その上で、自己探究につながるリフレクションの志向性育成において教師養成機関が解決すべき課題と課題に対する提案を行った。

(2)論文発表(「リフレクションへの志向性の形成を促す学習内容に対する提案-教職大学院での実践の具体に基づいて-」『教育学研究ジャーナル』第25号 pp.55-63)

リフレクションへの志向性を形成するための教職大学院での学習には、理論と実践の往還に加え、自己についての追究(自己探究)という3つ目の点を設定する必要がある。しかしながらリフレクションの実施には、必要性が理解できない、自己との対面に恐怖を感じる等の困難があることもわかっている。そこで必要になるのは養成機関での教師教育者によるサポートである。そのサポートとして、教職大学院での実践の具体から、リフレクションの学習を深めること、実習内容の転換、葛藤を促す「外部刺激」の提示を導出した。

※研究内容を踏まえ、科研の申請書を作成し、「自己探究に基づくリフレクションへの志向性の形成を促すカリキュラムの開発」として2019年11月に提出し、2020年4月に採択された。

成果の応用可能性 (私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。)

日本の教師教育の課題として、「職業的社会的化」(今津 2017:81)の発達や熟達を求める傾向が強い。理論と実践の往還の中自己探究を位置付けることもできにくい。本研究は、こうした課題に対応するものであり、学部と教職大学院の連携によりリフレクションへの志向性の形成を具体的に進めようとするものであり、リフレクションを重視した実習指導のモデルの提案となる。また、実習指導の環境整備や指導内容の変革にも貢献すると考える。

このプロジェクトの形成に 寄与した制度等

平成31年度科研費獲得推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員 (所属・職名・氏名・役割分担)

- ・藤原顕(福山市立大学 教授) : 学部の指導実際についての情報提供と学部と教職大学院のリフレクション指導を連携する上での課題整理
- ・宮本浩治(岡山大学 准教授) : 学部と教職大学院のリフレクション指導を連携する上での今後に向けての課題整理
- ・矢野博之(大妻女子大学 教授) : 現段階でのリフレクションについての日本と世界の教員養成における指導状況の整理
- ・若木常佳(福岡教育大学 教授) : 全体計画と教職大学院のリフレクション指導の課題整理